

# プール事故事例集

令和6年5月

檀原市総合プール重大事故調査会議

## 檀原市総合プールでのその他の重大事故

発 生 日 時	平成 27 年 8 月 1 日 午前 11 時 55 分頃
発 生 場 所	正形プール内
プールの概要・状況	水深 1.1m～1.3m
監 視 体 制	プール全体で 15 人の監視員
要 救 助 者	小学 1 年生男児(6 歳)、身長 1.2m
事故概要・容態等	<p>家族等 7 人で来園していた要救助者が、午前 11 時 55 分頃、正形プールで沈んでいるのを、遊泳中の一般女性が気づき女性 2 人で引き上げた。</p> <p>監視台上の監視員が無線で連絡し、プール管理業務受託会社職員等が駆け付け、胸骨圧迫を実施したところ、えずくような反応があった。AED を装着するもショック不要の指示。</p> <p>午前 11 時 57 分に救急要請し、県立医科大学高度救命救急センターに搬送。病院到着後心拍の再開があり、ICU にて治療が施されたが午後 8 時 47 分に死亡が確認された。</p>

発 生 日 時	平成 29 年 8 月 5 日 午後 1 時 54 分頃
発 生 場 所	子供プール内北側中央付近
プールの概要・状況	水深 0.5～0.6m
監 視 体 制	プール全体で 29 ポストとガードリーダー 5 名配置。子供プールは 2 ポスト
要 救 助 者	小学 6 年生(12 歳)
事故概要・容態等	<p>要救助者は、父親 1 人引率のもと、友人児童ら 5 人とともに来園。子供プール内において要救助者は他の男児 3 人と遊んでいたところ、午後 1 時 52 分頃に様子が急変し溺水に至る。事故発生時父親が不在であったことから、男児 1 人が父親を呼びに行く。</p> <p>午後 1 時 54 分頃に近くに居合わせた男性客が異変に気づき、監視員を呼ぶとともに要救助者を引き上げる。</p> <p>監視員より一斉無線連絡が行われ、午後 1 時 57 分に救急要請するとともに、駆け付けた総括責任者、監視員、救護員、利用客として居合わせた医師、消防士等が協力して救急救命措置を講じる。</p> <p>午後 2 時 4 分頃に到着した救急隊に引き継ぎ、県立医科大学附属病院へ搬送される。命に別状なく、翌日退院。</p>

# 全国のプールでの死亡・重大事故

出典：「プール監視員への道」サイト

<https://poolkanshi.com/rekisi.html>

## <ふじみ野市プール吸水口事故の概要>

本件の事故では、プール監視員に対して適切な教育・指導を実施しておらず、また施設の安全構造に問題があった。また、施設管理において吸水口の防護柵が固定されていなかった。市から委託を受けた受託事業者は無断で下請けに丸投げし、指導監督していなかった。また、施設管理者である市教育委員会は、安全点検作業を行わず、適正な業務履行に関する監督検査、及び履行確認を行っていない。これらさまざまな管理が積み重なり、小学2年生の女兒が吸水口に吸い込まれる死亡事故が発生した。

### <事故発生状況>

発 生 日 時	平成 18 年 7 月 31 日 13 時 40 分ごろ
発 生 場 所	埼玉県ふじみ野市大井プール
プールの概要・状況	流水プール 全長 120 メートル、幅 5.5 メートル、水深 1.00m、面積 565.67 m <sup>2</sup>
監 視 体 制	施設全体、現場責任者 1 名、アルバイト監視員 13 名、看護師 1 名
発生時の状況	営業時間中、プールの吸水口の柵が外れ、補修までの間に口頭により吸水口に近づかないよう注意を行う中で発生した。
要 救 助 者	7 歳 小学 2 年生の女兒
容 体 等	救助活動は難航し、救出のためプールサイドを重機で掘り返すなど、事故発生から病院搬送まで約 6 時間を要した。 死亡原因は、窒息等による溺死ではなく、吸水口に急なスピードで吸い込まれ、水路壁に強く頭を打ち付けられたことによる脳幹損傷による即死。

### <事故に至った問題点等の背景>

#### ○ プール監視業務に関すること

##### \* プール監視員に対する教育不足

プール監視に関する適切な研修等を行っておらず、吸水口の危険性と防護柵の役割を把握していなかった。このため、脱落した防護柵を遊泳者から監視員に届けられたが、受け取った監視員は何の柵であるか直ちに判断することが出来なかった。

##### \* 現場管理責任者の知識、認識の欠如

吸水口の防護柵が外れていることを認識した際、監視員に対して遊泳者への注意喚起の指示に留まり、自らは防護柵の再取付のため針金を取りに行っていたのみで、その他の措置を講じなかった。また、開業前の施設点検において防護柵の取付についてねじの代用として針金が使用されていたが、点検管理を継続的に繰り返すのみであった。

このような結果から、現場管理責任者の知識は、経験や危険認識が欠如していた。

\* 事案発生時における措置対応の不足

事故発生前に防護柵が外れている事実を認識し、大変危険な状況であるにも関わらず、遊泳者を直ちにプールから上げる。吸水ポンプ（起流ポンプ）を緊急停止するなどの措置を講じる。または、その必要性を認識していなかった。

\* 防護柵固定の強度不足

重要な安全対策である吸水口の防護柵が本来のボルト止めではなく、針金止めが常態化し、プール監視員はその危険性を認識していないため見過ごされていた。

○ 管理運営に関すること

\* 市より管理委託を受けていた委託業者は下請け業者に丸投げしていた。また、市と委託業者ともに下請け業者に対して適切な指導監督を怠った。

\* 吸水口の安全構造上の問題

平成14年に通知された基準では、「排(吸)水口は、二重構造とし、一重目として排(吸)水口は、堅固な金網や格子鉄蓋等を設けてネジ、ボルト等で固定させるとともに、二重目としてその先の配管口は金具等（吸い込み防止金具）を設置すること」と明記されていた。

しかし、配管口は金具等（吸い込み防止金具）が設置されておらず、通知後も必要な改修工事が行われず、構造上の問題が放置されていた。

<問題となった防護柵の固定状況>

吸い込まれた吸水口の2枚の防護柵

\* 1枚目 四隅すべてをボルトで固定

\* 外れた1枚 すべて針金固定で代用

固定していた針金は直径1・8ミリ。塩化ビニールのコーティングがされていたが、さびて千切れていた。

<その他のプールにおける主な重大事故>

発 生 日 時	令和5年5月4日午前10時15分頃
発 生 場 所	茨城県内の公立施設屋内プール
プールの概要・状況	2レーンを貸し切りにして部員8名が飛び込み練習。 水深120センチメートル
要 救 助 者	水泳部の生徒
事故概要・容態等	プールサイドから飛び込み練習を10回ほどした後、高さ30cmのスタート台に移り、4回目の飛び込みでプールの底に頭を打ち付けた。 救急搬送され、頰椎骨折するも翌日退院。 現場にいた男性顧問は指導経験なし。

発 生 日 時	令和 5 年 4 月 22 日午後 4 時 50 分頃
発 生 場 所	富山県高岡市のフィットネスクラブのプール
プールの概要・状況	水深 120 cm、赤い台を沈めて水深 60 cmにしていた。 午後 4 時から 1 時間の水泳教室で 19 人が参加。
監 視 体 制	監視員のコーチ 4 人（内訳：プール内 1 人、プール横 2 人、事務所とプールを行き来していた 1 人）
要 救 助 者	5 歳男児
事故概要・容態等	水泳教室の練習が午後 4 時 45 分からの 15 分間の遊び時間にプールに入り 60 cmの赤い台から降りて泳ごうとした際にヘルパ(水泳補助用の浮具)が外れて溺れたとみられ、午後 4 時 50 分頃プールに沈んでいるのが発見された。男児が溺れてから沈んで見つかるまで約 5 分かかっていたとみられる。病院に搬送されたが、1 時間 20 分後に死亡確認。

発 生 日 時	令和 4 年 6 月 28 日午前 9 時 15 分頃
発 生 場 所	名古屋市の小中学校プール
プールの概要・状況	1 年生 3 学級の 69 人がプール利用。 水面に顔をつけたり潜ったりする練習をしていた。
監 視 体 制	学級担任 3 人と補助員 1 人が担当。1 人がプールサイド 3 人がプール内から指導。
要 救 助 者	1 年生の男児
事故概要・容態等	プールに沈んでいるのを教員が気づき、応急処置により呼吸と意識を取り戻した。その後病院で処置を受け 3 日後に退院。

発 生 日 時	平成 30 年 8 月 23 日午前 10 時 45 分ごろ
発 生 場 所	福島県市立の小中学校プール
プールの概要・状況	25 メートルプール、水深約 80 センチのゴール付近 小学 2 年生の児童 57 人が参加
監 視 体 制	教諭 2 名が安全確認を実施
要 救 助 者	小学 2 年生の男児 身長 120 センチ
事故概要・容態等	ビート板につかまってバタ足で泳ぐ練習をしていたところ、ゴール付近で沈んでいる状態を別の児童が発見した。 安全確認を行っていた教諭の 2 名の内、1 名は一時的に目を離していた。児童は病院に搬送されたが意識不明の状態。
そ の 他	事故後、教育委員会は、全体を見渡すことができるプールサイドには教諭がおらず、安全管理が不十分であったという認識を示しました。

発 生 日 時	平成 30 年 8 月 1 日午後 2 時 25 分ごろ
発 生 場 所	福井県福井市の小中学校プール

プール概要・状況	水深 最深部で 1.2メートル、児童 38 人が利用 水温 29℃、プールサイド気温 37.5℃
監視体制	PTA が依頼した住民 3 人、児童館職員 3 人の計 6 人
要救助者	小学 1 年生の女兒 身長 120～130 センチ
事故概要・容態等	プールでうつぶせになって沈んでいる状態を女兒の兄が発見し、監視員が救助。 意識がなく、呼吸停止の状態であったが、人工呼吸や心臓マッサージにより意識を回復。病院に搬送されたが容体が安定している。 女兒は午後 2 時 10 分ごろ（事故の約 15 分前）から泳ぎはじめ、発見された場所は最深部となる 1.2 メートル付近だった。

発生日時	平成 30 年 7 月 23 日午後 5 時 5 分ごろ
発生場所	神奈川県横須賀市の複合施設の屋外プール
プール概要・状況	子ども用プール水深 0.24～0.55 メートル、大人用プール水深 1.1～1.4 メートル。プールは特に混雑してはいなかった。
監視体制	監視員 6 人
要救助者	3 歳の男児
事故概要・容態等	子ども用プールで両親ときょうだいの 8 人で遊んでいた。 帰宅しようとした際、男児がいないことに気付き、大人用プールの端でお向けの状態で沈んでいるのを父親が発見、救助。救命措置により水を吐き出し、病院に搬送されたが意識不明の重体。

発生日時	平成 30 年 7 月 23 日午後 2 時 10 分ごろ
発生場所	高知市の小学校プール
プール概要・状況	夏休による開放プールで 40 人ほどの児童が利用 縦 25 メートル、横 12.5 メートル、水深最深部 1.4 メートル 発見場所の水深 1.2 メートル
監視体制	保護者と高校生ボランティアなど 10 人
要救助者	小学 3 年生の女兒（8 歳）
事故概要・容態等	プールの底に沈んでいる状態で別の児童が発見し、保護者監視員が救助。 AED による心配蘇生が行われ病院に搬送されたが意識不明の重体。

発生日時	平成 30 年 6 月 22 日正午過ぎ
発生場所	大阪市の市立小学校のプール
プール概要・状況	25 メートルプール、水深約 95 センチ
要救助者	小学 6 年生の女兒
事故概要・容態等	プールの授業中に約 7 メートル泳いだところで泳ぎを中断。 プールから上がる際、ふらつき顔面を打ち付け、水に沈んだが、すぐに浮

	<p>かんだところを教員が救助も心肺停止状態。</p> <p>養護教諭が心肺蘇生を実施。別の教員がAEDを使った救命措置を実施し、意識と呼吸を取り戻し、病院に搬送された。</p>
--	---

発生日時	平成30年4月30日午前10時12分ごろ
発生場所	奈良県天理市のレジャープール
プール概要・状況	外周124メートル 水深100センチの緩やかな流れのある流水プール オープン直後で利用客100人ほど、混雑していなかった。
監視体制	規定の人数が配置（具体的人数は公表されておらず）
要救助者	4歳の男児（身長107センチ）
事故概要・容態等	<p>プールに浮かんでいる状態で発見され、プールサイドに引き上げた時は心肺停止の状態。病院に搬送されたが、5月3日朝、搬送先の病院で死亡。</p> <p>プールでは小さい子供から目を離さないよう呼び掛けていたが、保護者は少し離れたところにいた。</p>

発生日時	平成29年8月24日午後3時40分ごろ
発生場所	さいたま市 私立の保育園
プール概要・状況	縦6メートル×横4.7メートルで水深70～95センチのブルーシートなどで つくった仮設プール 3～5歳の園児20人の利用
監視体制	保育士2名による監視
要救助者	4歳の女児
事故概要・容態等	<p>別の園児が「あー」という声を上げたため、保育士が近づいたところ女児がうつ伏せで後頭部を水面から出し、意識がない状態で発見。</p> <p>監視していた保育士2名は、プールに設置した滑り台を片付けるため、園児らから目が離れていた。</p> <p>女児は、搬送先の病院でおよそ12時間後に死亡が確認された。</p> <p>翌年（2018年）8月、女性園長と当時勤務していた女性保育士は業務上過失致死の疑いで書類送検された。</p>

発生日時	平成28年8月1日13時40分ごろ
発生場所	四日市市 市立小学校のプール
プール概要・状況	25メートルプールの低学年用コース、水深約60センチ程度 事故当時児童62人の利用
監視体制	PTA7人による監視
要救助者	小学3年生（8才）の男子児童
事故概要・容態等	<p>周囲の児童が異変に気付き、PTAの監視員がプールサイドに引き上げた。</p> <p>監視員が心臓マッサージを実施。救急搬送時、呼吸と脈があったが意識が</p>

	なかった。
--	-------

発生日時	平成 28 年 7 月 20 日 16 時 35 分ごろ
発生場所	千葉県 公園のプール
プール概要・状況	50 メートルプールの水深 1.45 メートル
監視体制	不明
要救助者	小学 1 年生の男児 (6)
事故概要・容態等	水深 1.45 メートル地点のプールの底に沈んでいる状態で発見され、監視員が救助。発見時、意識・呼吸がともにない状態であったが、監視員人工呼吸を実施したところ、自発呼吸が回復した。意識不明の重体。

発生日時	平成 29 年 7 月 19 日 16 時 10 分頃
発生場所	埼玉県入間市 運動公園プール
プール概要・状況	浅いプール (水深 0.8 メートル) と深いプール (水深 1.5 メートル) を区切った 50 メートルプール
監視体制	事故発生時 プールサイドに 1 名ずつの 2 名。事故発生前の 16 時前まで 4 名体制であったが、目視による入場者数が約 170 人から 100 人に減ったため、2 名体制に切り替わっていた。
要救助者	小学 2 年生の女児 (8)
事故概要・容態等	水深 1.5 メートルの水中でうつぶせ状態で発見され、監視員により救助。一時意識不明、搬送先の病院で意識を取り戻した。命に別状はない。

発生日時	平成 29 年 7 月 9 日昼ごろ
発生場所	埼玉県 レジャー施設のプール
プール概要・状況	水深 50 センチ程度 子ども用プール
監視体制	監視員による監視
要救助者	1 歳の男児
事故概要・容態等	監視員が着用禁止のオムツを履いていた 1 歳の男児に注意しようと近付いたところ、溺れているのを発見し救助。 呼吸していなかったことから心肺蘇生を実施したところ、水を吹き出し意識回復。病院に搬送されたが、後遺症なども残らず無事。

発生日時	平成 29 年 3 月 25 日
発生場所	石川県金沢 飛び込みトレーニング室「ピット」(スポンジプール)
プール概要・状況	トレーニング室で 1.5 メートルの固定台から深さ 1.8 メートルの「ピット」に飛び込んだ際、「ピット」の底に足を打ち付けた。
事故概要・容態等	中学 1 年の女子が飛び込んだところ、飛び板から 3.3 メートル下のコンク

	<p>リート底に足を打ち、両足を骨折。</p> <p>重大な事故でありながら、事故発生時に救急車を手配していない。また、市への報告が4日後であった。</p> <p>事故が発生した飛び込み練習施設は、国内初の水を使わない飛び込み練習施設。水の代わりにスポンジが敷き詰めてある。</p> <p>日本水泳連盟の安全規定で「ピット」の底に30～50cmのマットが敷くことになっていたがマットが設置されていなかった。</p>
--	---

発生日時	平成28年8月25日午前11時40分ごろ
発生場所	仙台市の県立高校プール
プール概要・状況	長さ25メートル、幅16メートル、水深1.2～1.4メートル 3時限目の授業中。男子生徒23人、担当の男性教諭1人がプールに入り水球をしていた。
監視体制	不明
要救助者	17歳の高校2年の男子生徒
事故概要・容態等	プール中央付近の水底にあおむけの状態が生徒と教諭が発見。 引き上げた時には意識がなく重体。

発生日時	平成28年8月14日午後2時ごろ
発生場所	高知県南国市のレジャー施設
プール概要・状況	円形の造波プール 直径58メートル、水深：最深部1.3メートル 発見場所1.2メートル付近
監視体制	不明
要救助者	4歳男児
事故概要・容態等	プールの中央付近、水深約1.2メートル付近に沈む男児を利用客が発見 病院に搬送されたが3時すぎに死亡が確認された。 男児は1人でプールに入り、溺れたとみられている。 家族5人で来場し、着替えて家族とシャワーを浴びている途中で走っていなくなり家族が探していた。

発生日時	平成28年7月24日午後0時55分ごろ
発生場所	千葉県富津市 ジャンボプール
プール概要・状況	競泳用プール 長さ50メートル、水深1.2～1.9メートル 50人ほどが利用
監視体制	不明
要救助者	50代とみられる男性
事故概要・容態等	立ち泳ぎのような態勢で動かなくなっていて、水面に顔をつけて浮いているのを監視員が発見。

	直前まで監視員が泳ぐ姿を確認。病院に搬送されたが意識不明の重体。
--	----------------------------------

発生日時	平成28年7月21日午後1時ごろ
発生場所	栃木県那須塩原市 認定こども園のプール
プール概要・状況	縦9.5×横5.5メートル、水深最大65センチ 園児33人が利用
監視体制	見守りの職員2人
要救助者	身長は110センチの5歳女兒
事故概要・容態等	プール遊びを始めて約10分後にうつぶせで溺れている女兒を発見。 職員の救護処置で呼吸を取り戻し、病院に搬送された。

発生日時	平成28年7月15日午後5時20分ごろ
発生場所	鳥取県 町立小学校のプール
プール概要・状況	水深0.9メートルの地点
要救助者	小学6年生の女子児童(12)
事故概要・容態等	水泳の課外授業で飛び込んだ際、頭をプールの底に強打して頸髄損傷。 校長把握のもと、教諭の指導でフラフープに向かって飛び込む練習をしていた。後になり事故前日にも他の女子児童がプールの底に頭を打っていたが、担当教諭が報告していなかった。 後の事故調査委員会の報告書において「不適切な指導が事故を招いた」と非難。また、学校の対応について「児童みずから起こした『不慮の事故』』として処理しようとした」と指摘。「隠蔽とも疑われる態度に終始した」と非難した。

発生日時	平成28年7月14日午前
発生場所	東京都 高校プール
プール概要・状況	水深1.1メートル
監視体制	不明
要救助者	高校3年生の男子生徒(18)
事故概要・容態等	水泳の授業中で飛び込んだ際、首を骨折。胸から下がまひ。 授業では、保険体育の男性教諭が水深が浅いプールにおいて不適切な飛び込み指導を行い事故が発生した。 東京都教育委員会は男性教諭を停職6カ月の懲戒処分とした。